道退教釧路支部会報で

はくばく

No.202 2013-9-27(金)
責任者 三浦真吾
事務局 吉田朝夫
釧路市美原3丁目57-4 TEL36-7426

教育予算の増額 教育費の無償化、父母負担軽減、教育条件改善を求める請願署名

「はくばく」№201と一緒に送付しました署名用紙について、説明せずに同封しましたので、改めて説明致します。と言っても特別な説明ではありませんが、例年行なっている署名です。もうすでに、署名を終えて事務局に返送していただいた方が九名ほどいます。中には、札幌の小原さんは、二〇周年記念誌の原稿と一緒に、わざわざ札幌から送ってくれた貴重な方もおります。

小原さん、ありがとうございました。

昨年は、用紙が一人二枚の配付でしたが、今年は、どうしたことか、例年通りの一枚に戻ったようです。昨年の署名数は、

五二〇筆（参加者二五名）

何とか昨年の署名数まで取り組みたいと願っています。皆さんがんばって下さい。いつも大量に集めていただく、高橋さんや山手さん二人にばかり頼ってはいられません。厳しい言い方ですが、今まで一枚も集められなかった人は、今年こそ奮起して、一〇名の署名集約の取り組みに参加してくださるようお願いいたします。昨年を上回る吉報を期待します。

十勝でのパークの成績

①大西勝雄さん（114点）
②坂井純吾さん（114点）
③山手敏夫さん（131点）

その他の参加者
・千葉さん・有田さん・三浦さん
・釜蒔さん・岡部さんの五名でした。

前日も行ないましたが、練習とのことで、スコアは記録しませんでした。

恒例の十勝川旅行終る

【年一回になった二泊三日交流会・二一名の参加で楽しく終わる】

去る九月一七日から三日間、年金者組合と共催の恒例行事、二泊三日宿泊交流の旅行を十勝川温泉のホテル十勝川で行ないました。当初、二四名の参加者申し込みでしたが、前日になって急に不幸があって欠席する連絡があり、又、当日になって、前日までの道東沖の台風被害で、線路が浸水で列車が不通となり、参加できなくなったとの電話が来るなどして、三名の欠席者が出て、二一名の参加者となりました。

当日は、前日までの激しい風雨が、ウソのように晴れ上がり、絶好の秋日和になった中を全員元気で迎えの車に乗って出発しました。途中白糠の生協で買い物をし、音別駅で大黒さんを乗せるなどして、午後二時過ぎにホテルに到着しました。今回は初参加者が一人で、羽田さんと湖陵高校時代の同期生の方でした。

一日目は、ホテル到着後、パーク組八名は、休む暇もなく、パークゴルフ場へ出発。残りの人達は、各自部屋で休憩し、おしゃべりに興ずる。夜の懇親会は、矢臼別でおなじみの文工隊“花いかだ”という二人組の「壁塗甚句」なる小劇を演じてもらうなどの飛び入りがあり、お馴染みの坂井さんのゲームに興じ、その後は、それぞれ得意の喉を披露するカラオケで時の経つのも忘れ、楽しいひと時を過ごしました。

二日目は、朝食の後の学習会は、当初、辻さんの提案で語り合う予定でしたが、辻さんの欠席で急遽、元海兵隊員のアレン・ネルソン氏が語る戦争と平和「9条を抱きしめて」というDVDを観賞しました。その後に、有田さんの指導による「ふまねっと」の運動をしました。簡単な歩き方なのに、黒います枠を踏まずに歩くということは、高齢者にとっては、頭でわかっていても、足が思うように動かず、反射神経の退化を知らされました。午後からは、前日に続き晴天に恵まれて、快適なパークゴルフを楽しむことが出来ました。

今回は常連か欠席のせいか、残留組での中国語学習は出来ませんでした。こんなことは今までなかったことで、ここにもお互い年をとったものだと、痛感させられました。そんな中で、初参加の堤寛治さんが帯広の同級生が宿に訪ねてくるというので、彼だけの知人と思っていたら、何と元阿寒町の教育長を務めた高橋兼雄氏だったのです。おまけに羽田さんと大嶽さんと辻さんが同級生だったということで、思いがけなく四人で同窓会の場となり四人が昔話を語り合うというハプニングが生じました。夜の交流会は、桑原さんのマジックから始まり、ゲーム・カラオケとすっかり盛り上がり、皆さん、よく飲み、よく唄い…、日頃のわずらわしさから開放され、最良のひと時を楽しみました。この二泊三日の旅で皆さんは、満足して頂いたようです。帰りはホテルを九時半に発ち、予定通り釧路に到着しました。星が浦教育会館駐車場の前で解散を宣言し、帰路に着きました。

お別れの言葉

浅野幸恵

佳子さんが亡くなったという知らせを聞き、頭の中が真っ白になりました。「どうして、なんで」と繰り返しながら、悲しくて、悲しくてたまりませんでした。先日、病院へ行った時、「治ったらどこへ行こうか。おいしい物を食べに車まで連れて行くよ」という私に、「酸素ボンベを持っていかなくてはならないから、鶴居なら行けるね」と、何時もの様に、にこやかな顔でお話しでくれましたよね。それなのに、約束をまだ実行しないうちに逝ってしまうなんて、くやしいです。

佳子さんとは、本当に長いお付き合いをさせて頂きました。私にとって、佳子さんは姉のような存在でした。この長い月日の中で、楽しい事、つらい事たくさんありました。会う度に語り合った教え子の事。どんなクラス作りをしようか、問題を抱えているあの子に、どんな声を掛けてあげよう、佳子さんの子どもたちを見る目は、どんな時も暖かく、そしてやさしいものでした。佳子さん。私は佳子さんと話し合うと、自分の心の中まで暖かくなったのですよ。「佳子さんは、どうしていつも人を見る目が優しいの？　信じているものがあるから？　私もそれを信じようかなあ」とバカな事を言う私の話も、笑って受け止めてくれましたね。今は亡き宮本啓子さんと三人で行ったブータンへの旅。飛行機の中で、大事な薬を紛失した事に気がつき、「もう、私だけ日本に帰るしかない」と大あわて、旅行中何も起きず楽しい旅ができたことも、大事な思い出のひとつになってしまいました。でも佳子さんにとって辛い時期もありましたね。郡部から市への異動、学校事情の違いや、市に入って直ぐの組合の役員活動、仕事と子育ての大変さ。そんな時期も、持ち前の粘り強さと頑張りでのりこえてきましたね、やさしさだけでなく、強さも持った佳子さんを、いつもいつも頼りにしてきた私です。教育者として、クラスの子どもたちの事を心配しながらも、けい子ちゃんやかおるちゃんに充分な事をして上げられないと悩んでいた佳子さん。「私たち同じだね」と慰めあった事も思い出します。

佳子さんには、最後の最後まで甘えてばかりでした。自分の体調がすぐれないのに、元気のなかった私に、ハーハーと荒い息づかいをさせながら、心配してくださいました。（裏）

佳子さん、ごめんなさいね。そして、私の事ばかりでなく、私の子ども達や孫の事まで、いつも気に留めてくださいました。本当にありがとうございました。心の支えを失った私には、まだまだ心の整理がつきませんが、ゆっくり、ゆっくり頑張っていきます。

佳子さん、本当に「さようなら」ですね、静かにゆっくりとお休み下さい。

お別れの言葉　武山悦子

佳子さんと同じ病院に、夫が入院していたので、時々見にいっていました。その日は、看護士さんが、お膳を持って出てきましたので「食べましたか」と聞くと、首を横にしたので、ソーっと待っていると「どお」「酸素をふやしたんだけど苦しいの」「涼しくなったら、楽になるから」「うん」と、一言二言話して、疲れさせるといけないと思い帰ろうとすると「雄治さんはどう」と声を掛けてくれました。「元気になってきたから大丈夫だよ」といって別れました。亡くなる直前まで他人のことを気遣ってくれる優しい佳子さんとの、最後のお別れになってしまいました。雪が解けたら桜を見に行こう。秋になったら紅葉を見に行こうという約束もみんな出来なくなりました。

佳子さんが退職したので、すぐ新婦人の若草班の「音ちコーラス」に入ってもらいました。月一回のお食事付の気楽な集まりで、佳子さんは、梅酒の梅で作ったお菓子など、めずらしい物を持ってきて、みんなを楽しませてくれました。みんなが歌う歌を六〇曲位の歌集にして製本し、伴奏のテープも作る等、手間と根気のいる仕事をやってくれました。

みんな年寄りばかりなので、次々病気になり、治療のために引っ越す人の手伝いや、亡くなった人の納骨の時に、好きな歌を歌おうと、いろいろ考えて企画してくれました。陰でみんなを支えてくれていた佳子さんを、私達は何も支えてやれないうちに逝ってしまいました。

私ごとですが、組合婦人部の役員になった最初のお便りに載せる挨拶が書けなくて困っていた時、私の代わりに書いてくれたのです。困っている時に、いつも助けてくれる頼りになる人でした。そのときのお礼のつもりでこの文を書いています。母親大会の講師をどなたにお願いしようかという時など、何人か上がった候補の方々について、どんな考えの人か、どんな本を書いているかなど、よく話してくれました。控えめだけど、何かの時に、判断材料を提供してくれる頼もしい人でした。パッチワークとか、おばあちゃんの毛糸の準備とか、いつも手を動かしているのに、いつ本を読んでいたのか不思議でした。

地域の後援会活動で、初めて街頭宣伝に出ようという日、孝一さんのすすめで、第一声は坂東さんの家の前でやりました。よく通るきれいな声で堂々としていました。自分のことばで書いた原稿だからでしょうね。終ったら孝一さんが拍手をして「とっても良かったよ」とほめてくれました。それで元気付いて、お墓だろうと、パークゴルフ場だろうと、人のいる所なら、どこでもやりました。そんな勇気をくれた孝一さんを残して旅立つのは、どんなにか残念だったことでしょう。毎年八月十五日は、政治家の靖国神社参拝が問題が問題になりますが、佳子さんのお兄さんが、戦犯と一緒に奉られるのは、止めて欲しいといっていました。お兄さんの戦死した場所を尋ねて、ミャンマーだったか、南方戦線に行ってきたと聞きましたが、佳子さんが、平和を脅かす動きに、黙っていられない強さの原点は、そこにあったのかもしれません。そういう佳子さんの意志をどう引き継ぐか考えましたが、頭に浮ぶのは、一緒に行った長野の母親大会の帰りに、ドシャブリの雨にあって白馬が見られず、残念だといって次の年、又見に行った美しい山なみや、十勝の温泉や、パークゴルフ等、楽しかった事ばかりです。

平和運動も、体力の続く言でやり言すが、そのうち佳子さんの近くに行くと思いますので、あちらでも、よろしくお世話してくださいます様お願いして、お別れのことばと致します。

二千十三年　八月十四日

佳子さんへの「哀悼のことば」「お別れのことば」がありましたら、どうぞお寄せ下さい。

一〇月のパークの案内

・期日　一〇月十一日（金）九時三〇分
　雨天の場合は、十八日（金）
・場所　高山パークゴルフ場　現地集合
・参加費はなしですが、入場料３００円

九月十四日のパークゴルフの成績

・一位　大西勝雄さん（107点）
・二位　坂井純吾さん（108点）
・三位　千葉義夫さん（110点）

・八木さん夫妻・岡部さん・沢谷さん夫妻
・工藤さん・武山さんの一〇名参加でした。

場所は、遠矢のパークゴルフ場でした。一〇名の参加のうち、退職教の参加は三名でした。この所、交流パークは、年金者組合が主軸となり、退職教は参加減少気味の傾向になっています。お互い年老いてきたのでしょうか。

矢臼別問題学習会開催

度重なる理不尽で、身勝手な米海兵隊の矢臼別での演習。毎年のように一方的に実施されています。特に今年は演習場外に着弾し、地域住民に不安と衝撃を与えました。私達はこの報道は新聞報道でしか察知していません。先日の役員会で矢臼別の実態をもっと認識しようと、別海平和委員会の吉野さんを招いて学習しようという事になりました。つきまして次の日程で開催いたしますので、多忙な折とは思いますが、是非、ご参加下さるようご案内申し上げます。

・期日　一〇月二十八日（月）午後一時
・場所　はるか薬局　Ｆ３
・演題　矢臼別問題を考える
・講師　吉野宣和氏
　（別海町平和委員会事務局長）

二〇周年記念誌発行の件で

度々の言い訳で申し訳ありません。実は原稿が少ないので、逝去された会員の「はくぼく」に掲載してある弔辞や哀悼の記事も載せよう。管外に転居された会員にも呼びかけようという事になり、その手立てを講じ、三人ほどの投稿がありました。

それらの原稿を一生懸命打ち込んでいるのですが、予定通りに進みません。

九月には発行できると思いましたが、もう少し時間がかかりそうです。勝手な言い分ですが、もう少し時間を下さい。

一〇月末までには仕上げたいと思います。